MECCだより

武蔵野・多摩環境カウンセラー協議会広報紙　第６号　２００４年１１月

Ⅰ　理事長巻頭言・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・高橋博良
Ⅱ　武蔵野市環境講座・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・糸井　守
Ⅲ　シンポジウム「武蔵野の水を考える」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・高橋博良
Ⅳ　会員増強活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・藤井健史
Ⅴ　近況と雑感・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・冨川昌美
Ⅵ　外環問題と環境カウンセラー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・宇野哲夫
Ⅶ　会員紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・稲田　昂
Ⅷ　編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・宇野哲夫

事業たけなわ

高橋　博良

台風上陸新記録、ハリケーン米国を度々、被害甚大、温暖化の復讐なのでしょうか？　地球サバイバルに黄信号？　心配です。

MECC（NPO武蔵野･多摩環境カウンセラー協議会・略称）では本年度活動をEA21に特化しようとスタートしましたが、肝心の環境省が認証業務遂行に試行錯誤を生じ、遅れに遅れ、未だに認証審査員の講習会も・・・という状況です。MECCではEA21を先取りし、10月27日、11月5日両日、武蔵野市主催で事業所対象の環境講座を行います。小平市をはじめ多摩地域の各市でも同様の活動ができるよう各支部が地域との連携を取れるように活動化が望まれます。

来年正月7日のシンポジウム『武蔵野の水を考える』のチラシ作りは、MECCだより6号ができる頃完了予定で現在進行・努力中です。11月にはチラシ配布、普及宣伝が仕事になります。

渉外の部分としては、東京連合次期会長（平成18年度）を受託。関東、全国連との対応には適正・慎重に進めていかなければならないと考えています。

今後ともMECCにご支援・関心をお寄せ頂き、ご意見などをご遠慮なく、どーぞ！

武蔵野市環境講座

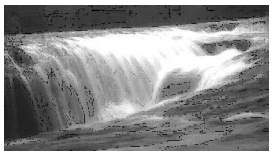
糸井 守

去る10/27、11/5、武蔵野市役所で事業者を対象とした環境講座が開かれました。ここ数年来、法規制の強化などで企業の環境配慮行動が求められているようですが、環境配慮はむしろ企業活動の改善に繋がる面が多いのです。今年度の講座では、主に中小企業を対象に、環境省制定の環境経営システム“EA21（エコアクション21）”、武蔵野市で実施している“グリーンパートナー事業”を中心に企業の環境経営推進のための基礎から、自社導入・実践までを2日間一体型講座としてまとめました。参加者30社は昨年の2倍。実施関係者のご努力も然ることながら、企業サイドの関心の高まりも大きな要因と思います。

なお市では“グリーンパートナー事業”の個別相談会を以下の日程で実施しておりますのでご利用ください。11/12、12/10、1/14、2/18、3/11。場所：市役所会議室。無料。要予約。

シンポジウム「武蔵野市の水を考える」

日時：平成17年1月6日（木）13:30～16:30
場所：スイングホール
参加者：先着150名様



プログラム
1. 映画（ビデオ）「東京水道Now & Tomororow」
2. シンポジウム「武蔵野市の水を考える」
   - ・都水道の現在、これから（重点政策） 都水道局
   - ・武蔵野市の水はおいしい 武蔵野市水道部
   - ・取水先（朝霞浄水場）からのメッセージ
   - ・下流域から、ちょっと一言 鈴木富雄（東京環境カウンセラー連合会長）
3. 抽選会 空クジ無し

主催：NPO武蔵野・多摩環境カウンセラー協議会
後援：未定
お問合せ先：武蔵野・多摩環境カウンセラー協議会 高橋 0422-31-7200

会員増強活動

藤井 健史

今年度活動テーマの1つの「会員増強」は7月定例会直後から本格的に開始しました。多摩地域の市毎に選考担当者を決め、ECの名簿より入会勧誘対象者を洗い出しました。選定された52人の方に勧誘状を送付した結果、現在までに入会3名、入会の意志を表明した方が2名となりました。今後更に増えていく見込みです。入会勧誘といっても勧誘状だけで決まる訳ではありません。興味を示した方には定例会を見学し、凡そどんな雰囲気かを感じ取って頂けるよう配慮しておりますので、今後ともご協力お願い致します。

近況と雑感

冨川 昌美

昨年11月、武蔵野市環境講座終了直後に記憶の混濁に襲われ、殆ど丸一年の加療の結果漸く日常生活での支障がなくなりました。まだ2つの病院に通院中ですが、「ストレスが残らない程度の仕事ならしても良い」「夜の会議は疲れが残るから」という医師の判断に従って、本郷のECUで事務局長のサポートを受けながら週, 2, 3日、環境教育セミナーの企画をやっています。さてこの数年、「環境教育推進法」など、環境省担当者との折衝や懇談会の出席を通じて、環境・環境教育・環境カウンセラーを取り巻く状況の微妙な変化を感じるようになりました。完全委嘱と思われたEAがカウンセラーの手を離れ、PRTRとは別に電気製品のローズ法の顕在化,「人材育成事業等に係る登録制度に関する省令」の公布に加え、環境省調査官事務所との協調も新しい課題です。一方、対する環境省も環境カウンセラーを、「オールラウンダーとしての機能」に限定し、EA審査員制度、有害物質取扱者制度など、専門性の高い新しい局面には必ずしも環境カウンセラーに拘らない制度を模索し始めたように思われます。言い換えれば環境省は「官製の」環境カウンセラー色を出来るだけ脱却して(中央審議会委員のなかにも環境カウンセラー制度に異論を唱える人も少なくないのです)、「肩書きだけ欲しい、待っているだけの、力の無いカウンセラー」が自然淘汰されるのを観察しているように思われます。環境省に「カウンセラーとしての優先権」を求めてきた時期は終わり、「市民・行政から信頼される、新しい時代のボランテイアとしてのカウンセラー」の増加という実績をもって存在意義を主張する新しい段階に来ているような気がします。古い知識や昔の肩書きを後生大事に抱えず、自ら研鑽し, 他人と協調し、如何に正しく伝達するか,自分のエンジンをどのように調整するか、カウンセラーに応募した初心に帰れるか、が問われています。この数年、環境教育セミナーで北海道から九州まで十数か所の協議会を訪問し、それぞれの地域でカウンセラーがその存在意義と責任を感じ、地域団体と協調して活躍しているのを見てその思いを強くしました。

外環問題と環境カウンセラー

宇野 哲夫

いま東京23区西部・多摩東部の渋滞対策として外環がクローズアップされています。その建設の是非を議論するため「外環協議会」が設定され、この10月で2年4ヶ月経ち、42回目を数えました。 まだ合意形成した訳ではありませんが、今までの議論を「PI外環協議会2年間のとりまとめ」として今後の基礎資料にまとめ1段落を得ました。外環問題は元はと言えば環境問題でした。 この地域の交通渋滞が幾ら深刻だといっても、不用意に外環を作られたのでは排気ガスや騒音でたちまち生活環境がおかしくなってしまう、 つまり協議会は地域ぐるみで自分達の生活環境を守ろうとする“地域環境力”を表現する場であり、それなりの社会的支持がありました。しかし2年経っても合意形成できず、“技術が無くて出来ない”“資金が無くて出来ない”のと同じ結果になっています。いや、合意形成の努力が見えない分だけタチが悪い。 日本では“普段付き合っていない30人もの人間が一堂に集まって、理論を積み重ねながら結論を引き出すノウハウ”が殆ど発達していません。 環境問題ではこの様な場面をしばしば見掛けます。環境カウンセラーはその辺りにも目を向ける必要があるのではないでしょうか。

稲田 昂

現在、光学機器メーカーに所属。製品の環境対策を主に製造業の環境マネジメントを担当。これまで約12年間環境関係業務を行い、ISO14001環境管理システム構築推進、環境報告書編集なども経験した。 資格：ISO14001審査員補、エネルギー管理士（電気）、公害防止管理者、(大気2、水質2、騒音、振動)、JEMAIエコリーフ検証員など。 著書：「環境法クイックガイド」（第一法規）など。

編集後記

今回の「MECCだより」は今年度事業さなかでの発行なので、事業によっては途中経過報告的印象になってしまった記事もあります。また環境カウンセラー自体に内在する様々な問題点に目をそらすことなく厳しく指摘する姿勢も必要と思います。（宇野哲夫）

発行者：NPO武蔵野多摩環境カウンセラー協議会(MECC)事務局
189-0013 東村山市栄町3-32-14-605 Tel&Fax:042-395-1741
電子メール：tomi8mi@nifty.com　　unotetsu@par.odn.ne.jp
ホームページURL：http://www.mecc.or.jp/